

星稜サ・エ・ラ

稲置学園 INAOKIGAKUEN NEWS LETTER

SEIRYO ÇA ET LÀ

No. 7

2007

CONTENTS

Special Issue

大舞台への挑戦！
～この夏の星稜旋風～

星稜 hunt up
キッズは遊びにまなぶ！

星稜アレコレ

金沢星稜大学
星稜女子短期大学
星稜中学・高等学校
星稜幼稚園・星稜泉野幼稚園

星稜Information



学校法人 稲置学園

大舞台への挑戦！ ～この夏の星稜旋風～

この夏は驚異的な猛暑。それに劣らず星稜は熱い風を巻き起こした。中学野球部の全国優勝、高校サッカー部のインターハイ準優勝、高校野球部の甲子園出場、大学講師杉林選手の世界陸上出場、高校トランポリン部男子の団体・シンクロ優勝。各監督と選手たちに、思いの丈を聞く。

星稜中学 野球部

“絆”でつかんだ
日本一

中学生の甲子園、 念願の優勝

全日本少年軟式野球大会は、中学校の軟式野球部のほか、都道府県の選抜チームや地域のクラブチームも出場できる。所属する都道府県の予選、続く各ブロックの代表まで勝ち



田中辰治監督

抜いて、全国の舞台をふめるのは、わずかに精鋭16チーム。この「中学生の甲子園」の出場、まして優勝へは実に厳しい道のり。

そうした全国大会での優勝。田中辰治監督は、瞬時には実感がわかなかった。それほど平常心で試合に臨んでいた。監督就任7年目、星稜中学校軟式野球部にとっては2度目、

11年ぶりの快挙だ。

大会中は選手たちがリラックスできるような心がけた。「何があっても笑ってやれ」と山下智茂総監督からも言われていた。

2回戦の対戦相手、横浜市代表は左腕ナンバーワンの投手がいるチーム。前日、ランドマークタワーに上り、横浜を見下ろすことで選手たちの志気を高めた。決勝戦では、球場へ向かう前に保護者の方に来ていただいた。親の顔を見るだけで気持ち落ち着き、安心するだろう、そうした気くばりも行き届いている。

選手たちの成長が 一番の喜び

田中監督が合言葉にしてきたのは“絆”。独りじゃない、みんながついている、総合力で勝とう。自分を信じて、あきらめるな。笑顔を絶やさない、きつとチャンスはやってくる、日本一の練習をしてきたのだから大丈夫だ。要所要所で声をかけた。「選手たちが試合に勝つたびに成長していく。ベンチでそれを見るのが本当にうれしかった」

中学から大学まで山下総監督の指導に接してきた。中学野球部の監督に就いたとき、人間づくりを第一とする山下野球を継ごうと決め、まずは身ぶり口ぶりを真似た。野球部OBから「山下監督にそっくり」と言



田中監督を肩上げる部員



横浜スタジアムで優勝旗を受け取る川口主将

われるほどだった。「人間性でも野球でも日本一になる」と、日ごろ、選手たちには野球だけでなく、挨拶、礼儀、態度などを厳しく指導する。大会後、この夏で部活を退く3年

生があるインタビューにこう答えていた。「星稜高校でも野球部に入って全国一をめざします」田中監督にとって、なによりもううれしい言葉だった。

主将 川口貴信君 チームワークで戦った

優勝してもすぐには実感できなかった。金沢に帰り、新聞を見て「日本一になったんだ」と思った。自分



たちは全国をねらえるほどの力はない、チームワークで戦おう、と決めていた。練習後に反省会をやったり学年の代表同士で話し合ったりしました。田中監督は怒るとすごい。でも、ほかたちの気持ちをよく分かってくれた。野球ノートに相談したいこと、口では言いにくいことを書いて監督に出す、そういうこともしてくれました。

高校でも野球を続けます。

星稜高校 サッカー部 インターハイで 準優勝

夢の舞台は 遠い道程の果てに

河崎護監督には開口一番、準優勝おめでとございます、と祝意を表したが、「優勝したわけではないので」とかわされた。

「インターハイの決勝戦なんて、これまで手の届かない雲の上のものだ



った。しかし今回、念願かない決勝進出を果たすことができた」

石川県下42校の代表となって全国へ。全国大会には47都道府県の強豪55校が出場する。

星稜高校サッカー部の実力は県下では圧倒的で、冬の全国高校サッカー選手権大会では第3位をはじめ好成績を残しているが過去、夏のインターハイはふるわなかった。

2007年度インターハイ開催は九州佐賀。7月末、北陸は梅雨が明けるといつかという時期だが、九州はすでに猛暑。選手たちは気候とも戦わなくてははいけない。ベストなコンディションでプレーできるかどうか、試合の行方を大きく左右する。もう一つの鍵は初戦突破。力のあるチームでも、すぐに本調子を出す



市立船橋高校との決勝戦



河崎護監督

ことは難しい。波に乗れないまま終わってしまうこともあるのだ。

今期のメンバーは、3年のうち7、8人が2年次からのレギュラー、と経験値が高い。インターハイ予選で優勝し、順調に成果を上げてきた。大会前には熊本でキャンプ合宿も行った。練習の毎日、今年はじめて平日ほど午後には阿蘇山に登ったり、猿回しを見に行ったりして、選手たちの気分転換を図った。

石川のサッカーの歴史に 新たな1ページを加えて

7月30日いよいよ開幕、星稜イレブンが気負わずにプレーに臨んだ。初戦、沖縄代表を3対1で下し、2回戦は宮崎代表と対戦、PK戦の末勝利。一つ駒を進めるたび、選手たちは次の試合を楽しみに気分を高揚させる。ケガも少ない。主将の鈴木選手をディフェンスのかげに守り固める。大会前には上手いかなかった連係プレーも決まるようになり、果敢に攻めていく。勝つたにいい方へと動いていった。

8月5日決勝戦、相手は関東の強豪、市立船橋高校。鈴木選手をはじめレギュラー3人を出場停止で欠いた状態での対戦。前半に先制するものの、1対4の逆転負けを喫した。しかし、インターハイ決勝進出は石川勢としては過去最高の成績だ。

大学、プロで活躍できる 強い選手を育てたい

1カ月ごと、1週間ごとの練習スケジュールは、河崎監督が組む。キヤプテンやチームリーダーが自主的に取り組む練習メニューもある。選手一人ひとりに主体性と責任感を持たせるためだ。試合における瞬時瞬時の判断力というものは、主体性がなくては伸びない。

土・日曜は、大半が練習試合か公

式試合。実戦でなくては、かけ引きは身に付かない。試合をして反省をし、練習をする、その繰り返し。また、試合にはレギュラーだけでなく、部員全員を出す。1年次から基礎、実戦を積み重ねては育たない、河崎監督はそう考えている。

星稜のサッカー部を率いてすでに23年。20代のころと40代後半になった今と、指導方法は無論違う。だが、チームづくりにも最も大切なのは情熱。勝ちたいという強い意思だと語る。

「勝つことがすべてではないが、勝てるということは、選手が育つ上で重要なこと。サッカーのさまざまな要素、技術、体力、気力を身に付けているからこそ勝てる。上に進んでも高いレベルでプレーしていけるように、選手を育てたい」

主将 鈴木大輔君 こんどこそは、全国優勝

「優勝を目標にしていたので...」。決勝で負けたのが悔しい。まして自分が出場できず、はがゆい思いだった。



チームの長所はよく声を出すところ。苦しい時こそ気持ちが沈まないよう、自ら率先して声を出した。サッカー歴は小学1年生から。やめたいと思ったことはない。サッカーが好きで楽しくて、ここまできた。「監督は厳しい人。でも、激励したり、まだまだ弱いぞと批判したりして、選手のやる気をうまく引き出してくれそうです」。

次の大会こそは優勝を狙う。

星稜高校 硬式野球部

9年ぶり 夏の甲子園

悔しさをバネに 甲子園出場

石川大会優勝、9年ぶりの甲子園出場を決めた瞬間、どれほど多くの歓声が上がったことだろう。星稜高校野球部の歴史を思えば想像に難くない。

今年の3年生は力がある。その力を実戦の場で引き出してやりたい。

あともう一步で優勝を逃した昨春秋選手たちの胸にはあの悔しさがあることだろう、この夏こそ何が何でも勝たせてやりたい。北川良監督の正念場。今度こそは、と選手たちの気持ちを奮い立たせ、彼らが力を発揮できるような雰囲気づくりに努めた。

5、6月、練習はいつもにも増して強化された。投手陣の猛特訓、星稜



北川良監督



初戦長崎日大と

伝統の1対1のノック。技術力だけではなく、精神面も鍛えることが目的だった。

北川監督は、山下総監督のもとで選手、コーチという経歴を積んだ。

平成17年の9月、高校野球部の監督になり、人間として社会性がまずありきという「山下哲学」を踏襲する。野球の技術を身に付けさせること以上に、礼儀や生活態度など、人間として成長することに比重をおいて指導してきた。

「山下総監督は、怒るときは真剣に怒り、ほめるときは心底、ほめる。その子のためになる、という信念があるから厳しく叱り、また、ほめるんです。しかも、選手の体調や精神状態、そうしたものをしっかりと読

む。私もそこまで行ければ、と思っていますが、なかなか」

山下総監督からは、日々、学ぶことがつきない。甲子園という初舞台に臨む際には、ベンチでの見守り方、選手の団体生活など細かなアドバイスを与えてくれた。

山下総監督と 周囲に支えられて

昨年、夏の石川大会は準決勝、秋は北信越大会の準決勝で敗れている。この夏、星稜ナインは、周囲の期待を背負い、自らの強い意思を抱いて石川大会に挑んだ。

高木選手が投打の中心となり、機動力を生かした攻めで着実に勝ち上がっていく。先制を許した寺井高と



アルプススタンドを埋めつくした大応援団

の3回戦、点の取り合いになった金沢東との準決勝という山場を越え、7月29日、決勝戦へ。野々市明倫を9対4で下す。

主将 島内宏明君 エース 高木京介君

チームを牽引した主将とエース

島内「石川大会で優勝したとき、苦しい練習をみんなで耐えて目標を達成できた、そんな気持ちでいっぱいになった。つらかったのは、キャプテンになってからケガが多く、みんなが練習にがんばっているとき、自分は補佐に回っていたこと。練習のきつさよりもつらかった。夏の大会であまり打てなかったのも厳しかった。でも、その分、仲間には笑顔を見



島内宏明君(3年)



高木京介君(3年)

せて、声を出して引っぱり張っている」と努めました」。

高木「甲子園は9年ぶり、しかも全国には星稜ファンが大勢いると聞いていたので、星稜野球を100%やる、全力を出しきろう、そういう気持ちで試合に臨んだ。野球を3年間やってきて、礼儀、部室の使い方、普段の生活、いろいろなことを教わった。北川監督は負けて悔しいときなどよく話をしてくれて、いつも野球をやりやすい環境をつくってくれた。監督に感謝しています」。

そして宿願の夏の甲子園。8月12日、長崎日大と対戦。これまでやってきたことを信じて、それを出せばいい。地面にしっかりと足を付けてがんばれば。楽しんでプレーしろ。そう言うって選手たちをマウンドに送り出す。

1点先取するも1対3で敗退。もつと、のびのびと戦わせてやれば。ああすればよかったのでは。さまざまな念がよぎる。

それでも、9年ぶりの甲子園出場

の意義は大きかった。

「昨年、もう一步のところで甲子園を逃し、まわりの期待は大きかったし、自分たちもぜひとも勝ちたかった。正直言っただけでした。あそこまで行けたのは山下総監督、保護者の方々、いろいろな人たちの支えと励

ましがあつたおかげだと思っています」この秋からはまた、新しい北川チームが動きはじめ。

「チーム力をつけて、来年も甲子園をめざします」



写真提供:アジャンシー・ショット

理想の跳躍へ発展途上

杉林孝法選手は、今年6月の日本陸上競技選手権三段跳で16m90cmをマークして優勝。同時に世界陸上大阪大会参加標準B記録(16m70cm)を突破、日本代表に選ばれた。

杉林孝法選手

(金沢星稜大学講師)

3度目の
世界陸上

星稜高校、筑波大学などを経て、この4月から金沢星稜大学人間科学部の専任講師。陸上競技部の顧問も兼任する。当初、部の指導のあとに自分の練習を行っていたが、体力的にも時間的にも無理があり、いまは学生とともに練習をこなす。

世界陸上出場は3回目。しかし、予選記録は16m21cm。の不振意な結果で、決勝進出はならなかった。

杉林選手の自己ベストは17m02cm。これは日本歴代2位の記録だ。これまでに数々の大会に挑み、現在31歳。「円熟のジャンパー」といった書かれ方を目にすることもある。が、自分の技術はまだまだ

途上にある」と言う。「遠くへ跳びたい、という強い純粋な心を持ち続けることが、長く続けられる秘訣」

より深いものが見えてくると言う。来年は北京オリンピックが待っている。目標は、日本選手権に好成績を収めて優勝すること、そしてオリンピック参加標準A記録(17m10cm)を突破すること。「壁は高いですが」挑んでいく。

星稜高校 トランポリン部

高い意識が
生んだ全国優勝

将来はオリンピック選手を

今期、第32回全国高等学校トランポリン競技選手権大会で男子団体優勝、男子シンクロナイズド競技で吉村・田崎コンビが優勝を飾った。

平成12年の創部以来、男女ともに



西川明大監督

好成績を上げてきた。西川明大監督は6歳からトランポリンを始め、26歳までの現役中に全日本選手権2位、世界大会出場の経験を持つ。また、国際審判員の資格を持ち、審判がどのように採点するのがわかる。こうした背景が確かな指導力につながっている。選手にはトランポリンの技能のほか、体力、柔軟性、床運動能力、自己評価をするための競技知識を体得させる。各々、からだの骨格や筋力



吉村祐太君
田崎勝史君

最初から優勝ひと筋

シンクロナイズドでは「予選がいい成績だったので優勝はいけるな」と思った。二人の息があって優勝。団体戦は「ひとりでも失敗すれば勝つ



主将 吉村祐太君(3年)



田崎勝史君(1年)

ことができないので緊張した」。大きな失敗もなく、優勝することができた。辛かったのは「大会前の朝から晩までの特訓」。

は違うのであるから、自分の練習方法を工夫するように、とも。吉村・田崎両選手については、「身体能力が高く、チャレンジ精神も旺盛。トランポリンは8mもの高さまで跳ぶ、その恐怖も克服しなくてはならない

が、そうした恐怖が彼らにはないのかもしれない」。西川監督がめざすのはジュニアからの一貫した育成。好成績を導いた高い指導力は、8年後、12年後のオリンピックを見据えている。

キッズは遊びにまなぶ!

今回は、星稜幼稚園 & 星稜泉野幼稚園取材しました。

園児の保護者のみなさん、
そして入園を検討されているみなさん、必読!です。



園内の雰囲気は
ほのぼの、ウキウキ、
生き生き!

2つの幼稚園に初めて足を踏み入れた第一印象は、生き生きと楽しげな場ということ。各教室には先生の手作り品や子どもたちのカラフルな作品が飾られていて、ほのぼのと温かい。この夏、星稜幼稚園の室内ブルーの壁には、先生方がペンキで絵を描きました。大宮弘一園長は永年、金沢市内の小学校で図工を担当されていた。『何か前と違うぞ。』という変化を、子どもたちはとても喜ぶそうです。



もう一つ、園内で目を引いたのは園庭のみずみずしい芝生。思わず裸足で駆けたり、寝ころがったりしたくなります。『あさって朝顔プロジェクト』(21世紀美術館をアサガオで覆いつくそうという企画。園では園児たちが育てた苗の一部を美術館へ贈りました。)で育てたアサガオも大きくなっていました。星稜の子どもたちはよく外で遊ぶそうです。その美

しい芝生や季節の花が、子どもたちの心にいろいろな恵みをもたらしていることは確かです。



子どもは遊びを通して
いろいろなことを
身に付ける

星稜の二つの幼稚園が指導の重点として掲げているのは、

- 1 基本的な生活態度の習慣化
- 2 豊かな人間関係の育成
- 3 主体的活動による自己実現

ということ。平たくいえば、集団生活になじみ、

友だちや先生と親しめること、自分の思いを伝えたり、物事に主体的に取り組めたりできること。

こうした社会性や主体性を、子どもは「遊び」から身に付けていくというのが、園の理念です。友だちと遊ぶなかで、協力し合うこと、ありがとうを言うこと、自分のやりたいことを言ったり相手のやりたいことを聞いたりすること、けんかをするこ

仲直りすること、あやまること...遊びには、子どもが自然と学んでいる様々な状況や場面があるのです。

子どもの
好奇心、主体性を
引き出す工夫

幼稚園の一日は朝の会、主活動、昼食、自由遊びというような流れです。主活動には季節行事、散歩、遊びなどをクラスみんなで行います。





面を常に工夫されています。

「ランド」の目的は 英語や体育の上達 ではなく…

そうした活動の中で先生方が心がけているのは、子どもたちの主体性の尊重です。たとえば、ある季節行事の工作をやりましょうというとき、先生は色とりどりの折り紙や画用紙を並べ、絵の具やクレヨンを用意しておきます。子どもたちがそれを見つけて興味を持ち、やってみたいという気持ちになる。「ぼくは〇〇を作りたい」「わたしは□□を作る」と言葉にする。このように、発見、興味、自発、自己表現を喚起する環境や場

主活動の一つ、「ABCランド」と「トライランド」を見学しました。ABCランドでは、ケビン先生が歌やQ&Aで子どもたちとコミュニケーションします。先生が「How are you?」と問いかけると名前をよばれた子が答



える、先生が「red」や「yellow」などの色の名を言うと子どもたちは室内にその色を探し、頭、肩、耳などにふれながらその名を音楽に合わせて歌う、という具合です。子どもたちはケビン先生とのやりとりで夢中、実に楽しそうでした。

子どもたちは簡単な英単語を使いますが、ABCランドは英語教育ではなく、英語を使った一種の遊戯。英語を使えば外国の人とも話ができるんだなと感じたり、その英語を使って外国の人と楽しく遊んだり、子どもたちが発見と体験をする場なのです。

トライランドは、柚先生が指導する運動の時間です。屈伸やジャンプなどの準備体操から始まり、マットで前回り、跳び箱跳び、平均台歩きやジャンケン鬼ごっこをしたりします。トライランドも、マット運動や跳び箱の上達が主目的ではありません。

ん。一回目はうまくできなかったけれど二回目ではできた、先生にほめられてうれしかった、というような体験をする、先生が鬼ごっこの説明をするのをちゃんと聞く、友だちと協力して用具を運んだり片付けたりする。子どもたちは、身体を動かす楽しさの中で、そうした自発性や社会性を身に付けていくわけです。

一人ひとりの「あのね」と 実直に向き合うこと

ABCランドやトライランドでは、

ひとりを大切にすることです。それは、安全への配慮ということもありますが、30人の子どもらいれば30人の接し方をするということです。言い換えれば、一人ひとりの「先生、あのね」に向き合うということ。子どもは、人や物を実によく見ています。先生が真剣に自分に向き合っているのかを見抜きます。子どもが「ぼくのお母さん、お父さん」と言うように、私たちは「ぼくの先生」「私の先生」でありたい。子どもは見つめられ、認められることで確実に成長していきます。



☆ 金沢星稜大学 【経済学部】・【人間科学部】 マスコットキャラクター 決定!



人間科学部



経済学部

4月1日より募集していた経済学部と人間科学部のマスコットキャラクターが決定し、10月27日(土)第6回流星祭のオープニングセレモニーで発表されました。全国から応募のあった422点の作品の中から、本学学生・教職員・同窓会役員による投票と、特別審査員のやなせたかし氏を含む学園審査委員会の選定によって、松山幹生さん(大阪府)の作品が選ばれました。最優秀賞の松山さんのほか、優秀賞2点の発表もありました。

皆様に愛される大学のシンボルキャラクターとなるよう、今後多方面で活用していきます。

また、愛称が11月中旬に決定します。

特別審査員 やなせたかし氏総評

大賞の松山幹生氏の作品は星の形がユニークなのと顔が愛らしい。マーク風にフラッグやTシャツにプリントしても映えるし、縮小、拡大しても効果があると思いますね。さわやかだし知的センスがあります。

佳作2点もそれぞれの面白さがあって棄て難いのですが、完成度という点では1歩及びませんでした。秀作が集まって良かったですね。愛されるキャラクターに育ててください。

最優秀受賞の松山幹生さん

最優秀賞に選んでいただき本当にうれしく、ありがたい気持ちでいっぱいです。このマスコットが金沢星稜大学で活躍してくれる事を期待すると同時にたくさんの人に愛されるマスコットになってくれたらいいなあと思っています。よろしく願いいたします。この賞を励みに努力を怠らず勉強に制作に向かいたいと思っています。

ります。本当に素敵な賞をありがとうございます。



★ Seminar Community ーセミナー「コミュニティ」

学外体験授業

「セミナー・「コミュニティ」報告

「スポーツ&文化」 グループ

本年度は、「国際観光を通して能登地域の活性化」をテーマにしています。

前号でお伝えした「日米草の根交流サミット能登大会」の体験を能登の国際観光に生かすため、9月5日・6日(志



賀・中能登・羽咋・大巻／9月12日・13日(輪島・珠洲・能登)の2グループに分け、大会に参加した米国人受け入れ家庭や地域づくりのキーパーソンへのインタビュー調査を行いました。

調査結果は11月までにまとめ、大会実行委員会に報告することになっています。

「地域ビジネス」 グループ

七尾市南大呑地域の村おこしを目的とし、能登特産品「中島菜」使用のコンビニ・カレー弁当の開発に取り組んでいます。

このアイデア弁当は、「かわり創出型」商品という新しいモデルによる仕掛けを付け、サークルKサンクスで来年2月の販売を目指します。学生は3つの仮想企業に分かれ、材料の生産から加工、流通、消費までの一連の流れを体験的に学習しています。

この授業は、JA能登わか



ば、青木クッキングスクール、サークルKサンクス、(株)オハラ、北陸フレッシュフーズ、ジャパンフレッシュ、日幸商事、電通、北陸農政局、NPOスローフード、七尾市南大呑地区町会連合会、南大呑グリーンツーリズム協議会など多くの企業、団体と連携して行っています。



★ 39名が県庁、金融機関などで インターンシップを体験

学生が在学中に企業等において就業体験を行うインターンシップ。今年度は石川県庁、地方銀行などで39名の学生が体験しました。

インターンシップを体験することで、就業意欲がより高まり、社会人としてのマナー等も学びます。この経験は、3年生より本格化する就職活動に大いに生かされます。

【今年度インターンシップ 受入にご協力頂いた企業】

石川県庁・福井トヨタ自動車(株)・(株)北國銀行・金沢信用金庫・竹松証券(株)・北陸朝日放送(株)・(株)金沢名鉄丸越百貨店・ヨシタ印刷(株)・南砺市生涯学習課・(株)富山第一銀行・富山労働局・会宝産業(株)・カナカン(株)・スポーツオーソリティ高岡店(株)メガスポーツ順不同



竹松証券株式会社でのプレゼンテーション



北陸朝日放送株式会社

空手部演武



模擬店



お茶会



バンドライブ



星短祭盛大況



ブライダルファッションショー 上位3ドレスの発表



花火 ～3分間の奇跡～



2年間でぎっしり詰まった写真展「稲置写真館」



ゲーム大会



ダンスコンテスト優勝
「花鶴風月」チーム

10月27日(土)、28日(日)の2日間にわたって第29回星短祭が「一瞬ーいまー」をテーマに、開催されました。

恒例のブライダルファッションショーを今年はコンテスト形式で開催、このほか、ダンスコンテスト、空手部の演武、ゲーム大会など盛りだくさんの企画と充実した模擬店で賑やかに行われました。

また今年初めて行われた後夜祭では、ダンスとブライダルファッションショーそれぞれ上位3位の発表が行われ、ブライダルファッションショー1位のエスコート役を、ツエーゲン金沢の木村龍朗選手にお手伝いいただきました。

クライマックスには、打ち上げ花火が夜空を彩り星短祭のエンディングを美しく飾りました。

★ 星短女祭 華々しく開催

★ 第5回歴史への招待「風林火山の旅」 ―戦国文化のルーツを探る―

地歴・公民科では

「歴史への招待」と題しこれまで様々な企画を行ってききましたが、5回目を迎える今回は、NHKの大河ドラマでも放映中の「風林火山の旅」、長野へと向かいました。

参加した生徒らは、武田信玄と上杉謙信が激突する川中島を中心に見学し、両雄の人生観を体感しました。

歴史をより深く学ぶよい機会となりました。

山本勘助の墓前で川中島の戦いと山本勘助の説明を聞く生徒



信玄、謙信一騎打ちの像



表女山展望台

★ 堂下ゼミ 能登地区キリコ祭り 参加で地域振興を探索

経済学部堂下恵講師ゼミでは、7月に能登町石井地区、8月に同矢波地区のキリコ祭りに参加し、観光客のキリコ祭り体験参加による地域振興の方策を探索するための調査研究を行いました。この研究は、石川県の委託を受け大学コンソーシアム石川が行う「平成19年度地域課題研究ゼミナール支援事業」に採択されており、学生たちは、地元の方々と交流しながら、少子高齢化



等による担ぎ手の減少など、祭りを継承していくためのさまざまな問題点を考え、さらに、祭りをとおした地域振興について研究していきます。

★ 2007年度 前期学位記授与式・後期入学式挙行

9月21日(金)、2007年度前期学位記授与式が行われ、経済学部一部の3名と大学院の6名に学長より学位記が授与されました。

また、同日後期入学式が行

われ、経済学部一部の留学生8名、経済学部二部3名、大学院の3名が金沢星稜大学生として新たな一歩を踏み出しました。



後期入学式



前期学位記授与式

★ 保護者のための就職ガイダンス・個人懇談会

9月29日(土)、保護者のための就職ガイダンスと個別懇談会が行われました。

学生の就職状況についての報告のほか、リクルート北陸支社長や学生相談室カウンセラー・高准教授の講演、就職活動を終えた4年生からの体験報告もあり、保護者として、就職活動支援に何ができるのか、反対に何をしたいのか・などについて知

る良い機会となりました。また、同日、ゼミ担当教員



と授業による成績・出席についての個別相談会も実施されました。入学から卒業、就職まで保護者と連携してきめ細やかな対応を行っています。

★ 稲友会地区懇談会で保護者らと交流

県外の保護者の方を

対象にした地区懇談会を8月26日(日)に福井市、9月1日(土)に新潟市、2日(日)に上越市、9日(日)に富山市、16日(日)に中国の大連で開催しました。

各地区とも大勢の方が参加し、大学の現状や諸活動等についての説明や報告に熱心に耳を傾けていました。

個別懇談会では、子供の成績や大学での生活、就職状況について担当者話し込む姿



が見られ、参加してよかったといった意見が多く寄せられました。

★ 中国・大連 夏のダボス会議 曹瑞林教授が出席

私は、2007年9月6日から8日まで、中国・大連で開かれた「中国夏季ダボス会議」に出席した。そのテーマは「ニュー・チャンピオンズ・変化するビジネス環境と企業経営の革新」である。主催者の「世界経済フォーラム」は1971年に設立され、スイスのダボスで年次大会を開催してきたが、今年から夏にも世界会議をもつことになった。90の国と地域より約1700人が参加した。

3日間の期間中、80余のセッションで、世界のビジネス環境、ニューリーダーの条件、イノベーション、知的財産権、環境保護について熱心な議論が行われた。

大連市は朝食会において最新の経済事情を紹介し、外国企業との提携、ビジネスチャンスを開拓する機会とした。

この会議が大連の対外開放の度合いを一層高め、大連の企業にとって外国企業との提携を拡大する重要な契機になったと思う。

私は現在、地方財政を主要

な研究テーマとし、大連や中国東北部はそのフィールドの1つである。2001年以来、年2〜3回中国での現地調査と研究交流を行っている。昨年度から「中国の地方財政調整制度とナショナル・ミニマム」の研究に取り組んでいる。10月の日本財政学会では、義務教育と医療保障の問題に焦点をあてて遼寧省と大連の農村地域における実態と課題について発表する予定である。

地方政府の財政はグローバル化する地域の産業や企業の動向と密接な関係がある。大連でのダボス会議への参加は教育と研究の視野を広げると同時に、今後地域経済と地方財政の研究を深める上で大いに役立つ経験になったと考えている。(記：金沢星稜大学経済学部 教授 曹 瑞林)



★ 宿泊研修で仲間とさまざまな体験

9月3日～4日の2日間、

国立能登青少年交流の家において宿泊研修が行われました。

1日目は、カヌー、アーチェリー、いかだ航海体験など希

望プログラムを体験。

2日目は、学年別プログラムでウォークラリー、オリエンテーリング、カッター、カヌーを体験しました。自然に



親しみ、仲間と協力しながら貴重な体験をしました。

★ 随所に星中魂、爽快な運動会

9月27日、秋晴れの下、運動会が開催され、3学年がそれぞれ赤団・青団・黄団に分かれ各競技や応援を競いあいました。

生徒たちは準備段階（練習）からテキパキ動き、先輩が後輩へと良い伝統を伝えている雰囲気を感じられました。

総合1位は青団、応援1位は赤団という結果になりました。



★ 高Pコース 海と山で課外実習

8月30日・31日にPコース

の課外実習が行なわれました。

3年生は能登で海洋実習を行い、スノーケリングやカヌー、地引網体験などをしました。

2年生は立山登山、1年生は白山登山の予定でしたが、悪天候のため、急遽立山

登山に変更となりました。

しかし、立山も天候が悪く2年生は何とか山小屋まで登りましたが、翌日、早めの下山となりました。



★ 通学路をボランティア清掃

10月6日(土)、高校2年生Bコースの生徒が学校近辺及び東金沢駅までの通学路の清掃を行いました。



ボランティア清掃は、総合学習の一環で年一回行っています。

★ 陸上教室 “かけっこ塾”

9月17日(月・祝)、稲置学園総合運動場にて、小学生を対象とした陸上教室“かけっこ塾”が開催されました。(主催…かなざわ総合スポーツクラブ)

大学陸上部・短大スポーツマネジメントコース、大阪世界陸上に出場した大学の杉林孝法講師らが協力し、参加した125名の小学生の指導を行いました。

“走る”“投げる”“跳ぶ”といった運動の基本動作について学年に応じたプログラムの提供を心がけました。参加者から、継続的な教室開催を望む声も多く聞かれ、スポーツを通して大学の地域貢献について考えさせられたイベントでした。



★ 剣道部

北信越学生剣道優勝大会で優勝！全国大会へ

9月9日(日)第49回北信越学生剣道優勝大会が新潟で行われ、男子剣道部が4年連続14回目の優勝を果たしました。

また、10月28日(日)東京の日本武道館で行われた第55回全日本学生剣道優勝大会に出場しました。



★ 空手道部 個人戦で全国大会出場

7月29日(日)に行われた第5回北信越空手道選手権大会で、形、組手ともに優勝した横山未香さん(2年)をはじめ、同大会で好成績を収めた岡田 彩さん、中川 幸さん、林 望美さん(2年)が、10月14日(日)大阪府立体育会館で行われる第45回全国空手道選手権大会に出場しました。



★ 県新人戦 (前期9月13日～16日)

○陸上部

男子 総合優勝 6種目で優勝

女子 総合2位 8種目で優勝

○トランポリン部

Aクラス 男女ともに 優勝

○ソフトボール部

男子 準優勝

○テニス部

女子 団体優勝

シングルス・ダブルスともに

優勝・準優勝



★ 金沢市新人戦で野球部、サッカー部優勝

9月22日～24日及び29日～30日に金沢市中学校新人大会が開催され、野球部が優勝(3年連続14回目)しました。また、剣道男子団体は3位、サッカー部は県大会代表決定戦に勝ち、それぞれ石川県中学校新人大会に出場することになりました。

★ 今井武志さん

トランポリン全国大会で銅メダル！

8月17日(金)から19日(日)に行われた第42回全日本学生トランポリン競技選手権大会に今井武志さん(2年)が出場し、個人Aクラス第3位の好成績を収めました。

また、9月29日(土)・30日(日)の、2008年北京オリンピック一次選考を兼ねて行われた第44回全日本トランポリン競技選手権大会では、個人で3位入賞はなりませんでしたが、星稜高校生との団体チームで、3位入賞を果たしました。



★ サッカー部

読売新聞社杯石川学生サッカーリーグ 優勝

第39回読売新聞社杯石川学生サッカーリーグ優勝決定戦が7月21日(土)金沢大学にて金沢大学を相手に行われ、本学が2対0で勝ち優勝しました。



★ 硬式野球部

私立大学選手権大会で初優勝！

8月6日(月)から9日(木)の日程で行われた、北陸大学野球連盟に加入する私立5大学で行われた第15回私立大学選手権大会において、硬式野球部が初優勝しました。

なお、秋季リーグ戦でも第3位タイと健闘しました。



★いもほり★

9月27日(木)年長組が五郎島でいもほりを体験。つるをひっぱってどかし、土を掘っておいもを探す子どもたち。

どんなおいもがでてるのかワクワクしながら、一生懸命掘っていました。おいもが見つかった、小さくても、大きくても“あった～！”と、とってもうれしそう。

袋いっぱいのおいものに、子どもたちは笑顔でいっぱいになりました。



★水遊び・泥んこ遊び★

今年は暑い日が続く、大好きな水遊び、泥んこ遊びを思いっきり楽しむことができました。

ホースのシャワーが気持ちよく、子どもたちのはしゃぐ元気な声と笑顔であふれます。

砂場に水を流し入れて、ドロドロの感触も十分に楽しめました。



★キッズサッカー★

さわやかな秋晴れの中で、キッズサッカー教室を体験しました。

年長さんは今年で2回目。久しぶりに会う元気なコーチと楽しいひとときを過ごしました。ボールを使った簡単なストレッチから始めて、ボールと仲良くなれる方法をいろいろ教えてもらい、大満足の子たちでした。

★星稜幼稚園



★秋の遠足 太陽が丘ゆうひみ公園にて★

「あっ あっちにも！」「ここにもいっぱいおちとるよ～！」と夢中になって拾っているのはかわいらしい“どんぐり”

どんぐりが沢山落ちている林を見つけて大喜びの子どもたち。ちょっぴり急な斜面もへっちゃらで、秋の収穫を楽しみました。



★秋みーつけた★

いつまで暑い日が続くのかと思うほどの長い夏でしたが、静かに秋は近づいていました。

10月に入って、年中、年少、年長組と3日間続けて出かけた松任総合運動公園。どんぐりやまつぼっくりなど、どの子どもたちの秋を見つけました。

園に戻った子どもたちは、早速あさがおのつるで作ったリースに飾ったり、どんぐりころがしゲームで遊んだり毎日秋を楽しんでいます。



★星稜泉野幼稚園

★ちびっこ夏祭り★

夏休み前の一日、園では、ちびっこ夏祭りが行われました。思い思いの服装で集まった子どもたちは、ひもひっぱりゲームや魚釣りゲーム、ボールけりなど、ゲーム券を財布につめて好きなコーナーを回ります。

「どれにしようかなー」お母さん手作りの景品を選ぶ瞳も真剣そのもの・・・その後、強い日差しが落ち着く夕方からは、みんなで園庭に出て盆踊りも楽しみました。

自分で作ったうちわを片手に踊るは、今年一番人気のゲゲゲの鬼太郎。なんだかほんわり幸せな気分が広がった夏の日でした。



理事長室から

9月17日(月・祝)に稲置理事長はじめ早瀬学長、山下理事ら一行が、中国・大連民族学院と大連工業大学を訪れました。



大連工業大学



大連民族学院

中学校グラウンド完成

8月20日(月)から改修工事を始めた中学校グラウンドが、10月25日(木)に完成しました。

11月4日(日)に完成式典を行い、引き続き、今夏日本一に輝いた中学校野球部と県準優勝の稲置学園早朝野球チームとの親善試合が行われます。



星稜ワンカル講座

～学生気分て学びませんか～

ワンコインで誰もが受講可能なカルチャー講座。気軽に楽しく、よりためになる情報の発信を目的にスタートし、今年で2年目になります。月一回のペースで様々なテーマで開催しています。

第13回 12/2 (土)	あなたの人生設計は大丈夫？ 【ライフプランを作ってみよう】 講演者：紺谷峰生氏(ファイナンシャルプランナー)
第14回 1/26 (土)	おもしろ会計学 【初心者のための会計入門】 講演者：山崎泉氏(金沢星稜大学講師)
第15回 2/23 (土)	おもしろ経済学 【初心者のための株式入門】 講演者：原耕平氏(金沢星稜大学大学院研究科長)

いずれも13:00～14:30 参加費500円

お問い合わせ：星稜エクステンションセンター
TEL.076-253-3867

金沢星稜大学、星稜女子短期大学次期学長決定

早瀬勇大学長及び千原恭一短期大学長の任期満了(ともに平成20年3月31日)に伴い、10月25日(木)の理事会において、金沢星稜大学次期学長に坂野光俊金沢星稜大学副学長が、星稜女子短期大学次期学長に大畠重衛金沢星稜大学教授が選出、承認されました。ともに任期は平成20年4月1日から4年間となります。



金沢星稜大学副学長
坂野光俊



金沢星稜大学教授
大畠重衛

趙 亜平大連大学理事長 金沢星稜大学客員教授に就任

趙亜平大連大学理事長が10月より金沢星稜大学客員教授に就任しました。今後、大連大学との交流を深め、教育・研究面でより成果があがることが期待されます。

趙先生の客員教授就任は、金沢星稜大学が日本で初めてとなります。



趙亜平先生(左)と早瀬大学長

大学オープンキャンパス情報

12/9(日) 10:00～

今年最後のオープンキャンパス！

一般入試を受けようと思う人のために	『一般入試対策講座』
公務員や税理士、小学校の先生になりたいと思う人のために	『CDPの紹介と特待生制度』
働きながら学ぶ人のために	『経済学部二部(夜間部)の魅力』

上記について、詳しく説明します。

◎このほか「学部の概要」や「入試概要」、「資格・CDP」、「就職状況」などの紹介や、学食体験、星稜グッズのプレゼントもあります。

保護者や1,2年生もお気軽にご参加下さい。

お問い合わせ：入試課 TEL.076-253-3922

行事スケジュール(11～1月)

金沢星稜大学

11月	2日(金)	人間科学会公開講演会
12月	2日(日)	ビジネス能力検定試験
	9日(日)	オープンキャンパス
	19日(水)	ブレ卒論発表
1月	7日(月)	後期授業再開
	19日(土)～20日(日)	大学入試センター試験
	27日(日)	一般入試A日程
	29日(火)	後期一斉試験期間(～2月4日)

星稜女子短期大学

11月	10日(土)	推薦入試(一般、自己、スポーツ特待生、スカラシップ)
12月	12日(水)	第12回公開文化学術講演会
	22日(土)	冬期休暇開始(～1月10日)
1月	8日(火)～10日(木)	補講日
	11日(金)	後期授業再開

星稜中学・高等学校

11月	8日(木)～11日(日)	後期新人大会
	23日(金・祝)	中学校校見学会
12月	3日(月)～7日(金)	期末試験
	4日(火)～6日(木)	中学期末試験
	7日(金)	中学体育大会
	10日(月)	追試
	18日(火)	全国大会出場激励会
	18日(火)～19日(水)	体育大会
	19日(水)	保護者懇談会(3年)
	20日(木)	再試
	20日(木)、21日(金)	保護者懇談会
	22日(土)	終業式(高・中)
	23日(日)～27日(木)	補充授業
1月	8日(火)	始業式(高・中)
	12日(土)	Pコース推薦入試
	17日(木)～18日(金)	全国高校体育研究大会
	26日(土)	国公立大学相談会(～2月2日)
	29日(火)	高校入試

星稜幼稚園

11月	2日(金)	シルエット劇(年長)
	5日(月)	観劇(年中)
	21日(水)、22日(木)	表現あそびの会
	29日(木)	とんと劇場
12月	1日(土)	つくしんぼ学級
	7日(金)	もちつき会
	12日(水)	ABCランド参観(年長)
	15日(土)	星稜クリスマスコンサート
	21日(金)	終業式
1月	8日(火)	始業式
	19日(土)	同窓会
	22日(火)	とらいらんど参観(年長)

星稜泉野幼稚園

11月	27日(火)、28日(水)	表現会
12月	1日(土)	星稜コンサート
	4日(火)	交通安全教室
	6日(木)	もちつき会
	15日(土)	同窓会
	20日(木)	ハローサンタの会
	21日(金)	終業式
1月	8日(火)	始業式
	23日(水)	ばら組参観
	24日(木)	りす組参観
	28日(月)	うさぎ組参観
	30日(水)	すみれ組参観
	31日(木)	きりん組参観

あとがき

酷暑の中、全国と世界で活躍した「星稜スポーツ」を特集しました。厳しい練習を積み重ねて勝ち得たもの、勝ったあとの喜び…等々をご覧ください。

街路樹の美しい紅葉も風に舞い散り、自然も冬の準備を始めました。学園でも、各校で夏から秋にかけて行われる大会や行事が終わると、そろそろ冬支度です。

季節の移り変わりを感じながら「星稜サ・エ・ラ」をお届けします。

法人本部 上田 奈津子

表紙：流星祭、星短祭で販売した星稜りんご

学校法人稲置学園・設置各校

金沢星稜大学

石川県金沢市御所町丑10-1
☎076-253-3924(代表)
<http://www.seiryu-u.ac.jp/>

星稜女子短期大学

石川県金沢市御所町西1
☎076-253-5900(代表)
<http://www.seiryu.ac.jp/>

星稜高等学校

石川県金沢市小坂町南206
☎076-252-2237(代表)
<http://www.seiryu-hs.jp/>

星稜中学校

石川県金沢市小坂町南206
☎076-252-2237(代表)
<http://www.seiryo-hs.jp/>

星稜幼稚園

石川県金沢市御所町寅27
☎076-252-5057(代表)
<http://kinder.seiryu.jp/seiryu/>

星稜泉野幼稚園

石川県金沢市泉野町6-17-30
☎076-244-5636(代表)
<http://kinder.seiryu.jp/izumino/>

星稜サ・エ・ラ

サ・エ・ラ(sa et là)とはフランス語で「ここそこ」「あちこち」。幼稚園から大学まで色々な場面にスポットを当てるという意味で、「どこでも星稜教育が息づいている」という表しです。

編集・発行／学校法人 稲置学園 2007年11月1日発行
石川県金沢市御所町丑10-1 ☎076-253-3908 <http://www.seiryu.jp>
編集責任者：春本裕雄(法人課長・秘書課長)
編集担当者：上田奈津子、井下桂子、宮崎 梢(以上秘書課)